

令和6年(2024年)6月25日
危機管理対策等調査特別委員会資料
総務部防災危機管理課

先進自治体におけるペット同伴避難の実施状況について

1 調査自治体

熊本県熊本市、福島県福島市、愛知県犬山市、福岡県久留米市
東京都西東京市

2 調査項目

- ・対象災害
- ・対象施設、施設内スペース
- ・一般避難者とのゾーニング
- ・ケージ・飼料
- ・ペット種類
- ・職員配置、外部団体等の協力態勢
- ・その他(特記事項)

3 調査結果

別紙のとおり

	自治体名/項目	対象災害	対象施設	施設内スペース	一般避難者とのゾーニング	ケージ	飼料(餌)	予算措置	ペットの種類	職員配置	外部団体等の協力態勢	特記事項
1	熊本県熊本市 (人口:728,677)	風水害	2施設 ・水前寺競技場(直営) ・九州動物学院(協定)	施設内	受入不可	飼主用意	飼主用意	通常の災対予算措置に準拠	特に指定なし ※ケージに入れる必要あり、危険動物は不可	動物愛護センター職員を直営施設に配置	九州動物学院(協定)	・現行の2施設での開設事例(令和4年8月台風接近時)水前寺:犬15匹・猫22匹、九州動物学院:犬33匹、猫27匹を受入。 (令和5年7月九州豪雨)九州動物学院:犬1匹、猫1匹(令和5年8月台風接近時)水前寺:猫1匹、九州動物学院:犬3匹、猫1匹、鳥1羽を受入。 ・平成28年熊本地震時、九州動物学院が自発的に延約1,500人の被災者やペットを受入れ。一般避難所では、ペットの鳴き声や臭いが避難所でのトラブルが発生。 ・令和2年台風時にアクアドームくまもとにおいて、一般避難所とゾーニングを図ったが、鳴き声や空調に乗った臭いの苦情が相次いだ。 ・平成28年、令和2年時の開設を踏まえて、一般避難所との同一施設利用は困難との見解を持っており、現行の2施設の運用にとどまっている。
2	福島県福島市 (人口:267,205)	地震・風水害	1施設 ・勤労青少年ホーム(指定管理)	・体育館内 犬用テント、猫用ケージ設置	受入可(別階)	飼主用意、市で用意	飼主用意、市で用意	ケージ購入費(既に購入済)、犬猫用のペットフード	犬・猫・小動物 ※ケージに入れる必要あり、危険動物は不可	避難所運営は災対職員2名、保健所職員3人配置。 愛護ボランティア・獣医師会が補助	・県獣医師会 ・市動物愛護ボランティア	・開設事例は、(R4年3月の福島県沖地震時)犬3匹 ・隣接施設駐車場(協定締結)を発災時車中避難スペースとして開放
3	愛知県犬山市 (人口:72,693)	地震・風水害	3施設 ・犬山市民交流センター(市が市民団体に管理委託) ・犬山市体育館(指定管理) ・楽田ふれあいセンター(市が市民団体に管理委託)	施設内1エリア	受入可(別階)	飼主用意、市で用意	飼主用意、市で用意	ペットフード、閉鎖後のクリーニング費用等 ※令和6年度予算はなし	特に指定ない ※ケージに入れる必要あり、危険動物は不可	2名(通常避難所職員)+1名(同伴避難所用)	・犬山動物総合医療センター(協定) ・中北薬品会社 県獣医師会(協定)	・開設事例はなし ・市内動物病院・薬品会社と協定を結び、市からの要請に応じて、動物病院が負傷した被災動物の応急手当や施設への受入を行い、薬品会社はペットシートやペットフードなどの物資の供給を行う。
4	福岡県久留米市 (人口:300,516)	地震・風水害	3施設 ・サイクルファミリーパークわんぱく童夢館(指定管理) ・久留米ふれあい農業公園(指定管理) ・西部地区体育館(指定管理)	施設内1エリア 30~40区画設置、テントタイプの間仕切りやマット、毛布を用意。	受入可(別階)	飼主用意、市で用意	飼主用意	運用開始時にケージを購入(使用実績なし、飼い主持参で充足)閉鎖時のクリーニング費用など計上。	特に指定なし ※ケージに入れる必要あり、危険動物は不可	発災時の運営はすべて市職員(各9~12名)にて対応	なし	・主な開設事例は、令和4年9月台風、サイクルファミリーパーク内に犬20匹 猫14匹 鳥2羽 ・令和5年度から2施設追加し現行の3施設。 ・当該施設の指定管理団体とは協定を結ばず、発災時の運営主体は市で対応 ・外部団体の協力が得られないため、市の人的負担が大きい。 ・ペットの獣臭が取れないほか、抜け毛等もひどく閉鎖後のクリーニングが必要になり、迅速に運営を再開したい管理団体側との足並みがそろわない。
5	東京都西東京市 (人口:200,114)	地震・風水害	1施設 ・エコプラザ西東京(直営)	施設内1エリア	受入不可	飼主用意	飼主用意	通常の災対予算措置に準拠	特に指定なし ※ケージに入れる必要あり、危険動物は不可	直営施設の職員で対応	なし	・開設事例はなし